

## 各部記事

二〇六

教學興隆の爲、涙ぐましい献身的盡力をつくされた先輩諸師の熱意であります。私達はこの尊い精神に對し心より感謝の念を捧げると共に此の母校の繁榮を築きあげべき一員たる當面の學徒としての責務を完了すべく只此の一事を念願として居るものであります。

以下各部に亘り御報告申し上げます。

(清水記)

## 各部記事

## ◆庶務部

幹事 清水文要

三月八日 昭和十四年度第廿九回卒業式を舉行す、式後送別茶話會並に記念撮影を行ふ。本年度卒業生左の如し。

高等部(十七名)

望月海順	小林學山	下邨顯淨
河端清端	香川是光	永瀧堯憲
小野間春雄	高野順諭	越野教宣
小山田鳳隆	株田詮精	竹中仙市
新津義尙	佐野全正	守山恭司
武波正芳	森田文暢	

中等部(廿一名)

岩橋光淳 中込義康 黒宮教文  
 石川國武 塚原玄淨 大橋健二  
 高宮鶴夫 竹谷榮靜 梅原鳳壽  
 齋藤鍊忍 村口泰信 松村玄秀  
 古屋智妙 吉川藤夫 伊達海順  
 西濱行順 中根湛康 天ヶ瀬寛甲  
 結城一郎 杉山睿隆 保福順正  
 五月六、七、八、三日間 釋尊降誕會道路布教開催(辯論部參照)

五月十三日 新幹事選舉(當選者上の如し)

五月十五日 第二十九回同窓會定期大會開催、午前九時田村幹事開會宣言す、片山副會長より學院前途多事につき本會の使命遂行に一層努力せよう訓辭あり。次いで正議長に松木本興先生、副議長に福島義孝先生就任す、それより直ちに各部幹事の經過報告に移る。各部への質義も無く十時二十分田村幹事長の解任の挨拶あり。満場拍手を以つて一ヶ年の勢に感謝す。引續き昭和十五年度新幹事を代表し清水庶務幹事の就任挨拶あり。次で清水幹事本年度豫算案を説明し豫算討議に入る。會員減少の爲各部共に苦しき豫算なるに對し不安の聲あり。各部幹事これに對し熱意を以つて進む決心を述べ。續いて建議案の討議に入る。

一、講辯會に對し續行するや否や又は開催日變更等の件辯論部にて從來執行し來れる土曜日講辯會は中學林制度にな

りてより授業が二部制となり講辯會開催に支障を來したるも  
布教に精進するは佛徒の急務なるにつき講辯會は高等部生は  
土曜日、中學林生は水曜日夜六時より執行する事に決定す。

一、退職各教師へ記念品贈呈の件満場一致に可決す。

この外

一、略式校旗製作の件

一、會則第七條一部變更の件

一、創立三十週年記念事業の件

等の諸種の建議を討議す。

續いて種々有益な希望案の提出ありて滞りなく議事の全部を  
終了し、議長解任の後清水幹事の閉會宣言を以て大會を閉じ  
た。時に午後三時十五分

左に前年度幹事の芳名を列記し獻身的奉仕に對し深甚の敬意  
を表す。

庶務部（幹事長）

辯論部

文學部

會計部

運動部

鈴木君應召後八月以降

購買部

助手

田村啓孝君	酒井圓通君	杉山寶淳君	中込義康君	鈴木寛善君	天ヶ瀬寛甲君	竹谷榮靜君	上田玄忠君	井上龍榮君
-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------

五月十六日 事務引繼完了。

五月十七日 卒業生諸兄に記念寫眞を發送す。

五月十七日 本山七十五世心妙院日修上人五十回忌法要に一同  
參列す。

五月十八日 部長並に前幹事に對し慰勞呈上す。

五月廿一日 文學部並に購買部助手會計監查員選舉を執行す。  
當選者次の如し。

文學部助手	上田玄忠君
購買部助手	高橋英正君
會計監查員	香川英頂君

池上泰信君	高野敦誓君	渡邊泰壽君	丸山玄貞君
-------	-------	-------	-------

五月廿四日 横須賀大明寺前教頭關本恩師の御本葬に際し弔電  
を發す。

同日 網脇龍妙師御晋山に對し祝電を發す。

同日 立正中學生教師以下八十四名登山す、清水上田兩  
幹事山内案内し驛迄見送る。

五月廿九日 灘上先生渡滿の爲驛迄梅原幹事御見送りす。

六月一日 新會員歡迎會を開催す。

六月八日 望月舜正先生御尊父御葬儀に弔電を發す。

六月八日 一學期校内雄辯大會を開催す。（辯論部參照）

六月九日 校内卓球大會開催。

六月十日 校内庭球大會開催す（運動部参照）

六月十日 花之坊丸山順孝聖人御本葬に際し清水、酒井兩幹

事參列す、

六月十四日 岩佐海廣師晋山に對し祝電を發す。

六月十五日より三日間開闢大法要に際し布教部手傳ひをなす。

〇月〇日 先輩牛居一教兄出征に際し祝電を發す。

〇月〇日 佐野海山兄出征淨資を捧呈し驛迄歡送す。

七月十一日 第一學期修業式を本山大客殿に於て舉行さる。

七月十八日 暑中見舞發送す。

退職せられし諸先生に對し記念品の捧呈を齋藤貫誠君、田村

啓孝君、田中靜光君、武内觀郎君に依頼す。

八月廿一日 第二學期始業式を大客殿に於て舉行す。

校庭擴張の爲全員勤勞作業を執行す。

〇月〇日 太田鳳啓君出征に際し淨資捧呈し驛迄歡送す。

〇月〇日 阿本始君出征に際し淨資捧呈し總門迄歡送す。

九月十四日 授業開始す。

〇月〇日 岩田先生御歸還に際し清水、酒井、黒宮各幹事御

出迎す。

九月廿三日 立正商業生登山清水幹事案内す。

十月七日 二王門祭禮に際し説教に出張す。

十月十一日 御會式道路布教開催。

十月十二日 同通夜説教奉仕（辯論部參照）

十月十五日 午後六時より身延町公會堂に於て第十五回聯合雄辯大會執行す。（辯論部參照）

十月十七日 甲府市制祭道路布教出張す。

十月廿四日 昨年入營以來中支に於て戰闘に参加せられ名譽の

戰病死せられし小屋舞一兄御納骨式に際し會員一同參列焼香

す。

〇月〇日 丁名塚玄格兄歸還す。

十月廿六日 峽南野球大會に祖山チーム參加す。

十月三十日 教育勅語燒發五十週年に際し校庭に於て式典を舉

行す。

國家に於ける新体制施行に順應すべく同窓會々則是學院教務

課に於て改正され發表さる。

十一月一日 舊會則に依り選舉せられし幹事並に監査員連署の

上辭任す。

〇月〇日 佐々木寛榮君歸還に際し中等部生歡迎す。

十一月三日 明治節の式典を舉行す。

會新會則頒布に際し舊會則の解散式を執行し引續き新會則の發會式を舉行す、新會則にては從來の幹事選舉制を廢して會長より幹事並に各級二名の委員を任命すとの會則に基きて左の幹事委員の任命あり。

庶務部幹事 清水 文 要 君

辯論部幹事 酒井 圓 通 君

文學部幹事 石川 是 行 君

助手	黒澤龍正君
購買部幹事	上田玄忠君
助手	高橋英正君
會計部幹事	黒宮教文君
運動部幹事	梅原鳳壽君
音樂部部長	岩田堯親先生
幹事	石川是行君

十一月六日 立正大學雄辯大會へ細井泰行兄を派遣す。  
十一月十日 皇紀二千六百年祝典を棲神閣に於て執行さるゝにつき全員參列す。

十一月十一日 奉祝記念として身延町主催にて開催されし競技會並に餘興等に學院よりも出席す。(運動部、音樂部參照)  
十一月十二日 秋季校内卓球大會開催す。  
十一月十七日 級對抗野球戰を身中グラウンドに於て開催す。(運動部參照)

本年度榮ある入營軍人左の如し。

藤澤玄唱君	辻義雄君	野口秋義君
淀川滋州君	平原要泉君	富田海順君
鯉淵玄昇君	(以上記念として兩炯視一個捺呈す)	
出征軍人芳名		
佐野海山君	太田鳳啓君	岡本始君
歸還勇士芳名(在學者)		
齋藤貫誠君	穗坂眞彌君	高野教督君

## 各部記事

佐野海山君	鈴木新二君	武内觀了君
佐藤俊雄君	厚海學眞君	島添前昭君
田寛中光君	安田泰導君	丁名塚玄格君
佐々木寛壽君		

## 會計部

幹事 黒宮教文

皇紀二千六百年學院創立三十周年と云ふこの記念すべき年に當り、日獨伊三國はガツチリと手を握り我は東亞共榮圈の確立!! 彼は不平等なるベルサイユ條約を破つて老嫗英を斥け共に世界新秩序建設に邁進しつゝある殊に我が國に於ては、所謂昭和維新であつて政治、經濟、産業等所有機構は盡く新体制に即應し一億一心一丸となつて身分の上下を言はず職こそ差へ場所こそ違へ、その持場々々に最善を盡しその期する處は滅私奉公盡忠報國のみ。

勿論我が學院が新体制に即應せざる無く多年の懸案も此處にその曙光を見、中學の認定は既に日數の問題であり、高等部の昇格又目渉と聞く誠に喜ばしき限りである。

鳥國日本が日清、日露の役以來鳥殻を破つて大陸へ——と仰び今又南方へ——と發展しつゝある如く、我が學院も延山の興隆と共に大いに飛躍進展しつゝある。斯く重大意義ある本年度に於ける學院同窓會の出納萬端を支配し、辯論、文學、運動の各部に於けるその性能を完全に發揮せしめ華々しき活躍の原動





きであります。

思想なければ談話はない、苟も確固たる信念堅實なる思想あり、又内顧の憂なく威武にも屈せず乃至名利に心を奪はれる事なく、只管所信のまゝ正々堂々と貫かんとするならば、其れこそそこに眞の大雄辯があると信ずるのであります。

而して、こゝに我等は如是き眞の大雄辯家はと想ひをめぐらす時、あの清澄一山の檀徒を舌頭に狂はしめてより、御入滅に至るまで、立正安國の指導原理を三大誓願の固き信念によりて示めされ當時衰々たる讀經念佛の外に聲を揚ぐる能はざる時代に於いて、何物をも恐れず不惜身命の御弘通をなされた宗祖こそ最も力ある大雄辯家と言ふべきであります。

顧みるに今や我が國は國家國民總力を最高度に發揮して、肇國の精神に基き萬民翼賛の新体制確立され、實に一億同胞一心となり民族の運命を賭して打破すべき重大時局に直面せる時、我等祖山學徒は「未來際までも心は身延山に住むべく候」と示めされた棲神の地にて朝夕行學の二道に勵み「力あらば一文一句なりとも語らせ給ふべし」との御指準に則り布教戦線へ「二陣三陣」と活躍すべく、宗祖御照覽の基礎的道場にて各自の辯術を錬磨して、將來への礎を固めんと努力しつゝあるものであります。

幸にして我が辯論部も宗祖の御加護並に松木部長先生の御指導と會員諸兄の絶大なる後援によりて、内にあつては講辯會、説教儀式、雄辯大會等、出でては道路布教、説教出張にと進出

し、その理想を目指して新体制下における重責の大手を終了し得た事を深く感謝すると共に、本年度における當部の活躍の跡を御報告申します。

五月六日より三日間釋尊御降誕會説教出仕、同御降誕會記念道路布教並に映畫會を山門前廣場にて開催す。辯士左の如し。

五月六日 酒井圓通君、村田海仙君、松木部長

五月七日 酒井圓通君、武井布教師、松木部長

五月八日 酒井圓通君、村田海仙君、松木部長

映畫布教に際しては特に病中をおして盡力された丸山順孝師並に灘波布教師清水君に感謝す。

五月卅一日 中學林講辯會を開催す、辯士左の如し。

一、開會の辭 酒井幹事

一、團結心と支那事變 片岡繁太郎君

一、日本精神 厚海隆進君

一、大和民族 石川忠義君

一、明朗大亞細亞建設 佐々木如龍君

一、歐洲動亂に備ふる日蓮教徒の覺悟

一、青年諸君に訴ふ 久世寛瑞君

一、一乗法華魂 高野義朗君

一、所感 伊藤三郎君

一、所感 鷹野貞二君

一、所感 高橋正一君

一、理想に邁進せよ

原 田 見 正 君

一、閉會の辭

清 水 幹 事

說教儀式並に講辯會は前學年まで毎週土曜日午後一時より開催せしも、今學年は中學林は學校の授業が二部制である關係上、次の如く開催日を變更す。

學院は従來通り土曜日午後一時より中學林は木曜日午後六時半より

六月六日 中學林講辯會開催

松木部長先生より左の如く演題を指定され各當直者はそれによりて登壇す。

一、青年學徒の使命

一、一粒の米

六月八日 校内各級選出春季雄辯大會開催す、當日のプログラム左の如し。

一、開會の辭

幹 事 酒 井 圓 通 君

一、青年學徒の使命

中學林一年 尾崎秀英君

一、青年學徒の使命

中學林二年 佐々木如龍君

一、所 感

中學林三年 小澤末夫君

一、物資節約に對する我等の使命

中學林四年 鷹野是秀君

一、肇國精神を把握せよ

中五 富田海順君

一、所 感

高一 梅原鳳壽君

一、青年と煩悶

高二 淀川滋洲君

## 各 部 記 事

一、所 感

高三 木島智要君

一、挨拶

部長 松 木 先生

一、閉會の辭

幹事 清水文要君

因に我が辯論部のために常に御援助を仰いだ丸山順孝師今朝遷化との報に接し一同暗然とし、

順孝院日照聖人(卅四才)の御冥福を祈る。

六月十五日より三日間開關會說教出仕。同宗祖御入山記念道路布教並に映畫會を山門前廣場にて開催する豫定なりしも雨天のため不得止を中止す。

九月十五日 大善坊功德會へ說教出張、毎週土曜日、日曜日午後七時より細井泰行君、武内觀良君、村田海仙君、清水文要君、酒井圓通君等布教部員交互に出張し說教す。

九月十六日 說教儀式、校歌プリント發行す。

九月廿八日 高等部說教儀式を開催す。

十月七日 二王尊祭禮說教出仕

酒井圓通君、清水文要君

十月十一日 宗祖御會式記念道路布教を開催す。

所——山門前廣場、辯士左の如し

酒井圓通君、武内觀良君、清水文要君、高野教誓君、細井泰行君、難波布教師、武井布教師

十月十一、十二、十三日 宗祖鶴林會說教出仕。

十月十二日 通夜說教出仕、本師堂に於て本山總務並に布教師學生により說教が行なはれ、十二時後は特に日蓮上人一代記



を映寫し多數の參詣者と共に御通夜す、説教師左の如し。

柴田總務祝下、松木本興先生、結城瑞光師、田中靜光君、細井泰行君

十月十二日 正慶寺龍口法難會説教出張

酒井圓通君、武内觀良君、細井泰行君

十月十五日 第十五回秋季聯合雄辯大會開催す。

參加団体 立正大學、池上學林、立正學院、中山學林、光山學院、祖山學院、祖山中學林、身延青年團

當日審査員諸先生を左の如く御願す。

松木本興先生、竹下眞孝先生、加藤鍊明先生、岩田堯孝先生  
難波智龍先生

プログラム左の如し。

一、宮城遙拜 一 同

一、祖廟拜禮 一 同

一、默禱 一 同

一、玄題三唱 一 同

一、開會の辭 幹事 酒井圓通君

### ◆優勝カップ返還式◆

一、審査員挨拶 本學教授 加藤鍊明先生

一、非常時と青年 祖山中學林 長崎湛長君

一、潜在する力 祖山中學林 小野寺光山君

一、民一億の祈り 祖山中學林 金森純考君

一、大轉換期に立ちて 光山學院 黒田敏明君

一、闘志と理性 祖山中學林 平原英俊君  
一、聖なる戦場に生命を捧げよ

一、起て！興亞の嵐に 池上學林 田中榮海君  
一、白衣の勇士を迎へて 本學 永田壽昶君

一、信仰に生きよ 中山學林 長谷川壽昭君  
一、時局下に於ける青年の覺悟 立正學院 鯉淵勇君

一、持場を守れ 身延青年 遠藤英治君  
一、青年の指標 本學 深澤惠孝君

一、戦線より歸りて 立大豫科 前岡顯亮君  
一、國家は青年に何を求めてゐるか 本學 武内觀良君

一、矛盾 立大専門部 中尾安幸君  
一、延山に詣で、 本學 細井泰行君

一、日蓮門下の新態勢 立大豫科 山内完教君  
一、翼讃主義の提唱 立大専門部 水江與志男君

一、宗教新体制に就いて 本學 齋藤貫誠君  
一、世界史の要請する我等の使命 立大學部 佐野法幸君

一、挨拶 本學 平岡正學君  
一、閉會の辭 辯論部長 松木本興先生

◆優勝カップ授與式◆  
一、閉會の辭 幹事 清水文要君

一、玄題 三唱

一 同

審査の結果左の四君が優勝、準優勝の榮冠を獲得された。

本學優勝(記念品授與) 高等部二年 武内觀良君

同準優勝(賞品授與) 高等部三年 齋藤貫誠君

他校派遣優勝(記念品授與)

光山學院 黒田敏明君

同準優勝(賞品授與)

立大學部 佐野法幸君

猶青年團派遣辯士に對し特別賞を授與す。

身延青年 遠藤英治君

現下萬民翼賛の舉國新体制確立に即應すべき指導原理を示めさんとする廿名の選出辯士の熱と、それに答へんとする聴衆の意氣によりて盛大裡に終了した、尙本大會開催に際して部長先生、本山布教部、審査諸先生及び參加辯士諸君の御盡力を深謝致しますと共に當大會に際し御奉仕下された會員諸兄身延印刷所、並に當日御芳志を寄與されし諸家に對し厚く御禮申上ます。

十月十七日 甲府市制祭特別道路布教出張

所―太田町公園

辯士―酒井圓通君、清水文要君、武内觀良君、村田海仙君

高野教誓君、細井泰行君、難波布教師

右催しに際しては特に御支援をかたじけなうした鹽田義遜先生並に統卒の勞をとられた難波布教師に厚く御禮申上ます。

十一月六日 立正大學講演大會へ細井泰行君を派遣す。

各部記事

指定演題、革新日本の學生第三學期

宗祖御降誕會雄辯大會を開催す。

(以上)

◇文學部

幹事 石川是行

◇出版部

「舌代」諸君！彼の古聖先賢が辯舌を以て、よく人を感化せりと雖も、それを今日に傳へたるは偏に文章の力による。經典あつて始めて釋尊の遺風今日に傳はり、倫語あつて孔子の道今に滅せず、四福音あつてキリストは、尙今日に生きてゐるではないか、三寸の舌端よく群機を導くと雖も、その聲たるや數里離れて聞くを得ず、瞬時の後に耳にする能はず、一管の筆よく古今をつなぎ一卷の書物よく文明を更む、先哲曰「ペンは劍よりも強し」と誠に然り、西に歐洲の戦亂は逆捲き、東興亞の建設是に調ふる秋、常に裏面に活躍せるは思想なり、宣傳なり而して、それを支配するは文筆の力に外ならず。諸君！千變萬化變轉極りなき現代社會の潮流は諸兄等が胸奥に秘せる思索と確固たる思想と健全なる文筆に託せられて居る、本化門下の使命亦實に此處にかゝれり、本年度正しく學院創立第三十週年を迎ふるにあたり、棲神こそは諸兄の蘊蓄を傾けたる文章を要望し、茲に記念號として發刊すべき待期の姿勢を執りたり。乞ふ！卓絶せる兄等の玉稿を……」と棲神原稿募集した結果が、此

の創立三十週年記念號の内容である。

此處數年に亙り祖山のルネッサンスが叫ばれ、學内にも同人雜誌「碧葉」の誕生を見たり等して、假にもその形式が成立つた様であるが、未だその實質に於て慨歎に堪えぬものがある。

即ち前記の原稿募集に對して、如何に應募が僅少であつたかは締切の順次十一月十五日に延期した事によつても窺知されるのであるが、此の事實は、どれだけ祖山ルネッサンスを稱揚し得るで居るだらうか。

「祖山の教學は、宗門の教學でなければならぬ」と叫ぶ今日！果して祖山學徒各々が、その自覺に立つて研鑽を積んでは居るであらうか。自他共に、反省すべきであると思ふ。

嚆昔に於ける碩德の偉大なる功績を誇稱するのみが祖山教學の擁立でもなければ發展でもない。時代は新体制に没入して、凡ゆる機構は舊体制を止揚して新体制を以て動かうとして居る否動いて居るのである。祖山學徒は、徒らに、古跡に傍んで居つてはならない、須く、勇往邁進して新智識を獲得し、新時代を達觀し、新秩序（宗教界）を指導してゆかねばならない。それには勿論辯論が必要であらう、又体力も必要であらう、然しながら其の指導原理たる教學の維持こそは、正しく文學に、よらねばならない、此處に文學部の任務があり、その責重大なるものがある所以である。

一冊の學報「棲神」が微々たる豫算の運用により約半歳に亙る陣痛を経て毎年産出され發刊されるのであるが、其の生みの

親の苦痛は豫算もさる事ながら、生命たる原稿の不足に於て最も大なのである、と云つて他山の大理石を持ち來つて内容全部を築く事は幹事の最も恥とする處であり、又祖山の名目にもかゝはると思ふ。

棲神は祖山教學の一大發表機關である、文學部の單なる出版物では無い。「祖山の教學は宗門の教學なり」と言ふならば、棲神の内容價值は、もつと／＼純粹性を帶び、指導性を帶びて然るべきである。それでこそ又祖山の教育は宗門の教育であると云ふ事も云へるし、祖山の信行亦宗門の信行なりとも云へる。ともかく私は棲神第二十六號の生母として責任を全うした事に對して深い感激を有して居る。

又、本年度は創立三十週年に兼ねて、久しく編輯しなかつた會員名簿を別冊附録として出版した、第五輯である。

（名簿編輯後記參照）

#### ◆圖書部

今春身延山圖書館主任室住一妙先生の助力により、學院第十號室に圖書縱覽所を設置した。特に許可を得て宗乘、餘乘の貸出圖書目錄を作成して讀者の便を計り縱覽に供したが、第二學期に入るや校舍改築の都合上遺憾ながら一時閉鎖した。（第三學期よりは新縱覽室にて再開の見込）

#### ◆書道部

本部を文學部の範疇の中に入れる事とした。

本學の書道は、加藤雲洞先生の指導の下に、非常なる好成績を上げてゐる。

奉祝皇紀二千六百年記念書道展

自十月二十五日  
至十月二十七日

於 甲府松林軒六階ホール

主催 山梨書道會

後援 山梨縣教育會  
山梨日日新聞社

推薦(山梨日日新聞社賞)

特選(第一席)

入選(十二名)

上田玄忠  
久世寛瑞

田中寛光 永田壽昶 村上明

高橋英正 平原英俊 榑原恭夫

中村貫一 高野義朗 宇野宣誠

上川國一

第拾壹回泰東書道展(入選者)

島添前昭 田中寛光 上田玄忠

永田壽昶 高橋英正 榑原泰夫

村上明 佐野澄夫 中村貫一

金森純孝 宇野宣誠 須磨辨能

高野義朗 上杉義正 久世寛瑞

上川國一 波多野教貞 朴永照

中村要 長崎湛長 片岡繁太郎

各部記事

木立精三 野呂玄要 谷口政治  
小林寛壽 中村喜伴 室住典孝  
森川繁藏 辻隆岳 山下勝次  
尾崎秀夫 喜多前肇 安積迪法  
至日易來

◇運動部

幹事 梅原鳳壽

スポーツと云ふ、その言葉の持つ内容的意義を議論する事よりも、先づスポーツに親しんで、それから後にスポーツの語義に對する學的研究を爲しても遅いとは云へない、とは必ずしもヒットラー一人の專賣的言論ではない、吾々は曾つて運動選手が華美な代名詞として誤まつた觀念に用ひられた時代があつた事を記憶する、然しスポーツと言ふ事は決してその様な浮薄なものでなく、スポーツ本來の意義は質實剛健、秩序整然、敏速にして且つ協同作用を營む能動的行爲を生む重要な素因を養成發展助長せしむる事にその本領が存する。スポーツ精神の旺盛な國民は、より進取的であり、發展的であり、明朗にして且つ剛健である事は、歴史が事實として、證明してゐる、スポーツとは必ずしも運動服を着てスパイクを履き、グラウンドで種々な競技を行ふ事のみが總てではない、我々の日常生活に於ける一舉手一投足がその儘スポーツだと言ひ得る。此の意味に於て廣範圍の運動場に恵まれない我が學院ではあるが、此れに對して

運動部の發展する餘地がないと考へるのは蓋しスポーツの眞意を解しないものであると云へる。

「より健全な精神はより健全な肉体に宿る」と言はれる、如何に透徹した頭腦を所有し、如何に熟練した技能を体得してゐても、所謂「才子多病」であつては寶の持ち腐れであつて、それを永續的に實行する事は不可能である。文化の中心は文學と雄辯に在るとは言へ不健康であつてはならない、國民の体位向上が稱揚されてゐる現代吾々は總ての事に於て、潑刺として剛健に、整然たる秩序ある運動精神を發揮して事に處する必要がある、勿論運動に耽溺して仕舞ふ事は不可であつて、良く學び良く遊べ、とは小學生にのみ與へる教訓では無い、我々の日常生活とは、凡て懸け離れた觀念的な抹消神經を疲勞せしめて、朦朧たる神經衰弱症を來す様な死學に没頭する事よりも、寧ろ大不能燒水不能漂の頑健な肉体を養正して、而る後に眞理の追求に精進する事こそ大切である。

本年度は時節柄、折角積立貯金迄した學生の旅行も中止をし亦剣道試合の如きも日取を決定して正に實行せんとする態勢にあつたが此れ亦學院の新体制に依り同窓會の機構改革等の爲め遂に其の機を失して終つた事は残念であり遺憾に思つて居るが必ずしも幹事の怠慢に非る事を御諒承願ふ。

終りに同窓會機構改革により新たに競技部の新設を見た事を附記して筆を擱く。

### ◆野 球 部

當部は毎年峽南野球大會を目指してスタートを切るのである本年も先きに我が軍の至寶たる武波兄を送り出だしたりと云へど新たに松永、堀、吉川の三君を迎へ峽南野球大會六年連覇を胸に秘めて練習を開始した。

六月十日 硬球にて試合を爲す。

身 中 8—2 祖 山

始めて握る硬球故勝手が知れず敗る。

六月十四日 硬球試合

身 中 4—3 祖 山

最初二点のリードのまゝ七回迄おす、然しながら不馴の爲か七回裏に青竹投手の四球續出と二安打により逆轉して敗る。

暑さは何處へか行き去り愈々待望の秋のシーズンは來た、然し我々は何んとめづまれない運命にあつたのであらうか、校舎改築と同時にグラウンドは使用不可能、それこそは明るい希望と強い努力を以て宿望の峽南野球大會六年連覇を目指す我等に如何に悲痛に感じた事か、されど嘆いて許りはゐられないのだ、此のグラウンド完成の一日も早からんを切望して部員一同は放課後バット持つ手に鍬を握り、日頃きたえたスポーツマン精神即ちたゆまざる精神力、勞働力を以て全力をそゝぎ作業に従事したかくして練習とは名ばかり厚德寮の庭でキャッチボールを行ふ程度、総合的な練習の出來様は無い、かくする内宿望の峽南大會は開催された。

十月廿六日 第一回戦身延中學對祖山、於身中球場  
兩軍メンバー左の如し。

祖山	身延
(一)渡邊	(捕)栗原
(遊)淀川	(左)鈴木
(三)青竹	(一)深澤
(投)梅原	(遊)木内
(左)堀	(右)松下
(二)荒木	(三)田中
(中)山野	(中)西川
(右)大石	(投)古屋
(捕)松永	(二)中村

十月二十七日 午前中不戦勝にて正午より優勝戦を行ふ。  
オール身延對祖山  
兩軍メンバー左の如し。

14 24 18 5 3  
盗得四三安  
壘点球振打  
6 5 14 3 0

オール身延	祖山
(遊)西野	(投)青竹
(一)望月(晃)	(遊)淀川
(左)佐々木	(三)村上
(二)笠原	(二)梅原
(投)望月(重)	(捕)松永
(捕)池上	(右)山野
(三)熊野	(左)荒木
(中)馬場	(中)堀
(右)佐野	(一)渡邊

祖山 身延

2 5 2 12 3  
盗得四三安  
壘点球振打  
5 10 8 7 2

あゝ遂に六年の連覇ならずして我等は敗慘を見たのだ、されど我々は實に良き体験と教訓とを得たのだ、天は我に大なる試験を與へたのだ、決して自信を失つてはならない、何時の世にも犠牲者はある、我等もその一人なのだ、如何に練習不足とは云へ、やはり敗者は悲しい「慘敗に泣く涙あれば練習の苦しさに泣け」だ部員諸君よ少し位ひの不服は我慢して練習し技術の錬磨に勉め様、そして先輩の遺した偉業を再び我等の手で取りもどそうではないか。

十一月二日 身中對硬球試合

祖山 2 — 3 身中 にて敗る。

然し硬球にも大分馴れて來た此の分なら身中倒破も遠くない事であらう。

尙本年度活躍せしメンバー

谷川田 竹永邊原上川木 石野田  
竹淀永 青松渡梅村淀荒堀大山戸  
チ将一 手手 缺  
主マデ 投捕一二三遊左中右 捕

各部記事



### 三 等 深 澤 君

秋季校内卓球大會

十一月十二日 歸還勇士前卓球部主將鈴木新二君を迎へ、参加者二十五名を數ふる盛大なる大會を講堂に於て開催す。

#### □紅白戰

白軍の小林一疋田(先生)能く頑張り紅軍の先陣總崩となりしが、紅軍の殿り有瀧—高橋—高宮よく是れを反撃して遂に紅軍の大勝。

#### □トーナメント戰

優勝鈴木、二等村上、三等高橋

#### □級 戰

一等 村上 (中四)

二等 高宮 (高一)

三等 鈴木 (高二)

#### ◆劍 道 部

今や日本精神一億一心等が國家を擧げて叫ばれてをる秋、如何に武道精神の重要なるのは既知の事也。

世界を威壓する皇運も一つは 天皇陛下の御稜威と共に皇軍將士の奮戦力闘によるので有ります、之れ全て大和魂日本精神の發揮であり、此の日本精神をして發揮し易からしむるもの武道精神に待つもの大也と云ふも過言にはあらず。

武道精神といふのは單に劍を振り、人を斬る眞似をする事により培養されるには非ず、如何なる精神修養も武道精神と言へ

る只單に我々部員は劍といふ媒介により、その深奥にある所の精神を見る事により自己の精神修養を爲さんとする也。

今春部の主をなす株田兄を送り出し今その後繼を見ずして中堅たる前田、多賀兄を送り出さんとしてをります、希はくば校友會員各兄及び同窓會員各兄には武道精神の重要な事を認識され、以つて現在の一大缺陷たる道場の設立に盡力されん事を切望し以つて部報とします。

#### ◆競 技 部

昨年厚生省によつて初めて施行せられたる体力檢定會に於て學院より参加せるもの四十餘名、初級に合格せる者十餘名、中級は僅かに二名と言ふ頼りない結果を見、甚だ遺憾に堪えない所であつた、この時に當り今回体位向上に最も力ある競技部の設立を見たる事は、從來運動不足を痛感し來つた學院生に取りて誠に喜ばしい事である、グラントの完成を待つて本格的に部の充實を計らんとす、乞ふ絶大の御後援を……………。

競技部の新設されて間もない十月十二日身延町主催紀元二千六百年奉祝會に於て八百米リレーに出場、各選手よく力走し殊にラストの渡邊君の駿足は他の二チームを抑えて堂々優勝、輝やく皇紀二千六百年に誕生せし競技部は幸先よき出發をした。

#### □八百米リレー

優勝 學院チーム (渡邊、中込、村上、佐野)

二等 身延中學

三等 身延青年





形態を文字によつて記さう。

先づ特筆すべきは皇紀二千六百年奉祝々賀會に於ける、餘興の出演であらう、當日の日記一頁をめぐつて見るに、

「二千六百年の皇紀を壽ぐ碧空には、白雲悠々として飛び、四圍の山林、寂として音なく、此處身中グランド奉祝舞台に呼應する觀衆の爆聲のみ峽町を轟かす、秋の陽は斜に傾き、西風次第に荒れる午後、世紀を飾る一駒！、日滿支の完全提携と日獨伊の防共樞軸同盟とを象る「ハーモニカ行進」は〇〇〇〇の勇壯活達なりズムに乗つて展開された。（中略）……各々特技のハーモニカを奏する時、しんとして人無きが如く幾百の聽衆はそのトレモロの音、ヴァヨリンの音、チェロの音に陶醉し的確なベースとメロデーに恍惚として我を忘れ、合奏に至つては思はず胸湧き肉躍るの感を抱かせしめた、と認めてある。さてその跡を辿つて見るに、新京より東京に至る經路を、此のハーモニカバンドの合奏と獨奏とによつて綴り、その間の寸劇、万才浪花節、歌謡曲、口上等の名演技振りは實に味があり、且つ時代的にも意義ある爆笑と快笑とによつて觀衆に迎へられた。新京以來驛々に於ける堀君の、ブラットホームアナウンスは鼻にかけた半音の聲が一層その感じを出させた。朝鮮出身の天ヶ瀬君の特別出演アリランは觀衆の中にも郷愁をそゝられた者が多數居つたであらう、殊に色白の結城君が朝鮮服をまとうて伴奏したのは、共に感銘を與へた。又鷹野君の朝鮮服も似合ひ「鏡間坊」と筆太に畫かれた提灯をひつさげてアコデオン氣取で立

廻つた微笑ましい演技は終始して舞台面に潤ひを見せ兎角かたくなる半島人素質の半面に是く打ち溶けた和やかな情味を有して居る事を表現したのは全の成功だつた。村田君の支那人は宛ら穢ならしい上海の裏街を想はしめ、服裝と形貌とがびつたりと板に付いて居り、しかもインチキな支那語を堂々と喋べつた處に、同君の名優振りが在り、ソバヤの笛は黃昏迫まる上海街にガタ車を引き／＼鳴らして居る支那の貧民を思はせるに充分だつた。

細井君の十八路軍隊長の正裝は實に念の入つたもの、青龍刀黒マント、水筒、番傘、彈帶、鐵砲、彼の女の寫眞等同君一流の演技は、その姿を僅々一分間の内に金色夜叉のお宮に扮した手際によつてもわかる。何事も反對な支那流とは云へ、お宮が毛の生へた足を捲し上げて貫一を蹴つたのには、觀衆の大爆笑と共に、尾崎紅葉も草葉の蔭で今日一日笑ひこけ、顎が外れて終つた事だらう。遠藤君の支那ボーイ！此れ程に支那人らしさを活かしたのは本物の彼國人も顔負けしたらう。映畫界を風靡した彼の「愛染かつら」の獨奏は同君の自由な、ハイブハーモニカの操作によつて巧妙に情緒を湧かせ聽衆の耳を奪つた。石川君の浪花節は、とにかく逸品物であつた。真正面に坐つて居られた片山教頭先生が、頭をかしげて居たが本人知るや知らずや「時間が見えるまで一席」は、慰問された勇士連が居つたら、もう一席と要求する名調子……ハーモニカを持たせればこれ亦輕快なベースが同君の最も得手、搖籃に搖れる様な心持

に陶然となつたのは聴衆の一人、私のみでは無かつたらう。

大石君の姑娘は支那最負の日本人が、ひと目で、ぞつこんと云ふところ、黙つて居るとレターの二、三十通はたしかに舞ひ込んで来る器量好し、それでハーモニカの獨奏を演じたのだから堪らない愛嬌たつぶりの奏し方が「氣に入つた」と叫んだ者があつた。竹内君の慕の油賣は育ちが知れ相な隠し藝、白練に向ふ鉢巻、廣告旗押し立てゝ、おもむろにトランクから取出した片足のもげた禿頭の人形では無い、慕？そこで裏賣口上、高々と張り上げて「サーテ お立合ひ……」とやらかした。後で聞くと口を開けてボカーンと見上げて居た暖いのが随分居た相な——。成川君のヒットラーが力強いドイツ語で？マイクの前に立ち舉手の禮も嚴肅に祝述を述べ、次いで滔々と放つた、獅子吼は、さしも廣大な身中グランドを埋める觀衆を壓倒し盡して終ふ。ところが此の時のドイツ語がイロハの逆だつた事は、さすがヒ（知）ットラーも知るまい。續いて堂々闊歩し來つた渡邊君のムツソリニーもアイウエオの逆しまを祝辭に代へ、早變りした竹内君の近衛、細井君の鄭孝胥、村田君の汪精衛、五ヶ國代表のぐつとひきしめた歴史的握手は二千六百年奉祝歌のバンドの吹奏裡に、或は高く或は低く個々の意志と意志とをその瞳に輝やかせて、離れず暫しは應激の坩堝に没入して居た。かくて終始一時間半に亘るハーモニカ行進は幕となつたのであるが此の大成功の裏面に随分苦心のあつた事をも、止めて置き度い。勿論各部長が一致團結して努力した事が此の結果を齎ら

したのであるが、特に村田君の指揮宜ろしきを得た事をあげて感謝し、同時に舞台裏にあつて種々の配慮をねがつた酒井君、杉山君に感謝する次第である。

新体制と同時に産聲をあげた音楽部だけに、確固たる基礎は今のところ出来て居ないが、次の様な事を考へてゐる。

- 一、先づ音楽部そのものゝ向上の意味から謂つて、名曲レコード鑑賞を、ぜひしたいと思つてゐるが、その設備が現在皆無である故此れを整備する事、音楽室の設置等。
- 一、雅樂研究方法の具体案と實施

## 校友會々報

今年は何んといふ芽出度い年であらう。大日本國は紀元二千六百年、祖山學院は創立第三十周年、何れも未曾有の奉祝年である。幸ひなる哉、内に新体制の胎動をきゝ、外に世界新秩序の建設をみる。靜かに母校の歴史をたどれば、御草庵に於ける宗祖九ヶ年の御垂教は身延川の清き流れの如く、今尙祖山學院に流れ傳へられてゐる。

弘仁二年（祖滅二五五年）延山第十七世善學院日鏡上人は西谷善學院を開創した。かくて四十四年つゞいた善學院は慶長九年十二月延山第二十二世心性院日遠上人によつて更に擴張され西谷檀林と稱した。それから二七一年間つゞいた西谷檀林は明